

さとoya

発行所 ▶ 群馬県里親の会（群馬県社会福祉協議会内）〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12 ☎027-255-6034
 発行人 ▶ 前川知洋 発行日 ▶ 2024年（令和6年）3月31日 Email ▶ satooya@g-shakyo.or.jp

シン・ピアサポが始動します!!

ピアサポートからシン・ピアサポートへ

群馬県里親の会 会長
 前川 知洋
 Tomohiro Maegawa



群馬県里親の会では4年前から里親同士の助け合いを目的としてピア・サポート活動を実施してきました。約6名程度の里親でグループを形成し、日頃の悩みを相談しながら互いに励まし合ってきました。ただ、それは任意の会員による限定的な活動でした。

でも、ついに機は熟しました。いよいよ装いも新たに「シン・ピアサポート」として始動します。

行政上の正式名称は「里親相互交流支援事業」ですが、その事業を受託した私たち里親の会としては「シン・ピアサポート」と呼ばせていただきます。この会報を通して、シン・ピアサポートを知ってください。

令和6年度からは、群馬県下の登録里親200余世帯の「すべての里親が、あらかじめ設置された近隣のピアサポのグループに所属します。このことは群馬県でも「里親は里親会の活動に必ず参加するもの」という基本方針に基づき、ピアサポのグループへの参加を奨励いただいています。

過去4年間のピアサポート活動で培ってきた経験を資産にしながら、群馬県下に約20のピアサポのグループを編成します。

このグループにはお世話役としての「サポート里親」さんを立てます。里親同士だからこそできる相談事、共感できる話題があります。ひとりで悩み

をかかえ込まないで相談してみてください。きっとかかえていた重荷が少し軽くなるのを経験することでしょう。また、未委託の里親さんは受託中の里親さんと関わることで、受託に向けたよい準備となることでしょう。

従来のグループでは「集まる」ことがおもな活動でしたが、シン・ピアサポートでは互いのスキルアップの支援もして行きます。また、サポート里親さんを中心に連絡や時には訪問もさせていただきます。すこし「お節介」のようでもあります。里親として孤立しないためです。私たちは里子たちのために互いが協力し合い、チームで養育して行くものだと考えているからです。

そもそも、親どうしやご近所さんとの「ほど良い」お節介が機能していれば、社会的養護を必要とする子どもたちはもっと減らせたのではないのでしょうか。だからこそ、里親同士の「おせっかいサポート」は、群馬県里親の会のシン・ピアサポートの重要な柱になると思うのです。

新しい取り組みですから、皆さまのご協力が欠かせません。令和6年度は手探りのような1年になると思います。どうぞ力をお貸しください。

「シン・ピアサポート」の詳細は理事会にて協議を重ねてきております。来たる4月20日（土）の里親の会総会にてピアサポグループの組み合わせや活動の詳細をお知らせします。ぜひご参加ください。

シン・ピアサポート 変わります!!

こんな感じに

今号の「会報さとおや」は、トップページから話題にあがっている「シン・ピアサポート特集」です。いったい何が始まるのか。従来のピアサポートとどこが違うのか、ご紹介します。

この記事の内容は概要に過ぎません。

足りないこと不安なことも多々あるでしょうが「すべては里子たちのため」です。

子どもたちの希望ある未来を目指して、どうぞ、この新しい活動にご協力をお願いします。

新 その1

従来は任意の参加者によるピアサポ活動でしたが、群馬県下で登録されたすべての里親さん

が対象です。10名程度の里親からなるピアサポートグループを約20組編成し、それぞれに担当する「サポート里親」を立てます。このサポート里親は経験豊富な里親さんから人選します。

すべての登録里親さんがピアサポートのグループに属することになるわけですが、ピアサポ活動に参加することは強制するものではありません。ただ、サポート里親さんが連絡したり関わりを持つことになりますので受け入れてください。

また、各グループには各施設配属の里親支援専門相談員(略して里専^{さとせん})さんも参加協力をいただくことになっています。



親 その2

従来のピアサポでは集まることがおもな活動でしたが、必要に応じてサポート里親さんが訪問したり、グループ内で連絡を取り合うこととして

行きます。グループによっては野外活動や施設訪問などを企画しても良いでしょう。

そのような里親同士の交流を通じて、孤立しない里子養育を目指して行きます。里親個人は小さいですが、「私たちには心強いチームがある」と言えるようなピアサポを目指します。



深 その3

里親としてのスキルを深めるグループ活動を目指します。そのためには……、

①サポート里親さんには専門性を深めるための研修を受けていただきます。また……、

②グループ内での相談や学びも深めて行きます。里親研修会などの学びを確認し合ったりその後の取り組みをフォローするのも良いでしょう。互いに助け合って里親業を深めましょう。



進 その4

国は里親家庭への委託率を上げようという方針を掲げています。そのために里親支援の体制を強く進めて行きます。群馬県では、その受け皿がこのピアサポート活動なのです。

そこで、未受託の里親さんには、サポート里親さんと受託児童に関わる現場を見ていただきながら、受託への準備を進めて行きます。

また、新しく受託した里親さんには、全てが初めてのことでしょうから、不安や疑問に少しでも寄り添えるように、サポート里親さんを中心にピアサポの皆さんで「受託直後支援」も進めて行きます。

その他にも、一時保護の場合や、レスパイトケアのアドバイス、進学や就職に向けた情報共有、さらには措置解除後の喪失感のケアなどもこのピアサポート活動の中で進めて行く課題だと考えています。あせることなく一歩ずつ進みましょう。

従来のピアサポ活動にたずさわった会員は、群馬県の里親さんの中では3割程度の方々でした。裏をかえせば、ほとんどの里親さんがピアサポートの活動は未経験なわけです。そこで、今までの活動を紹介することで、理解を深めていただく一助になればと企画しました。ひとつは、ピアサポートのグループを2年間にわたりリードして来てくださった宮子宏江さんへのインタビュー記事です。新・ピアサポートの参考になさってみてはどうでしょうか。また、他に3名の里親さんから体験談を寄稿していただき、トピック記事として掲載しました。

広報委員会は、前橋市でファミリーホームをなさっている宮子さんを訪問し、これまでどのようにピアサポート活動をなさってきたのかをうかがってきました。



——今日はインタビューを引き受けてくださりありがとうございました。ピアサポの活動をうかがう前に、ファミリーホームを始められた経緯をうかがえますか。

 以前勤めていた児童養護施設は交代制の勤務で、子どもたちの生活と自分の生活に明確な区切りがありました。社会的養育を学ぶ中で、継続的な関係を築きたいと思うよ

うになり、子どもたちと共に暮らし始めました。——大勢の子どもたちと関わるのは大変ではありませんか。

 子どもたちと関わる全ての人に協力してもらいます。チーム養育は丁寧な子育てに繋がりその子らしい成長を深めます。

——やはり社会的養護はチームが大切なんですね。里親は「個人事業主、みたいなもの」ですから、ひとりで問題をかかえ込みがちです。そんな中で、ピアサポ活動で里親さんたちにもどのように関わってこられたのでしょうか。

 里親は同志で、喜びと苦勞を共有し合える大切な仲間です。

次ページに続く→



ピアサポートのサポート里親として参加し、始めは自己紹介から始まった活動でしたが、ランチをしながらの活動などを経て、あらためて里親同士の繋がり的重要性を感じました。

皆さん立場や状況が違えど、子どもの為にと里親を志した者同士。少人数だからこぞできる話をする場は日々の養育の息抜きにもなっていました。

近所の方に里親であることをどの様に伝えているのか、実親さんへの思いや日々の告知の様子など話することができる場は貴重ですし、この活動を通して私もメンバーの皆さんから学ばせて頂きました。

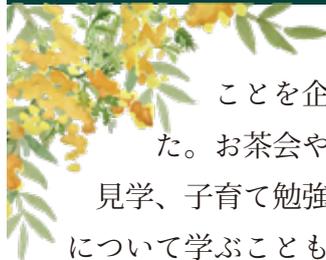
2023年度は通常のグループ活動に加え、子どもと一緒に参加できる活動を企画しました。グループ活動に子ども連れで参加ことは以前もあったのですが、なかなかゆっくり話ができなかつたので、話をす

る場と子どもが楽しめる場の両方を持つことができ良かったです。ご夫婦での参加もあり、普段から協力している様子が垣間見れたのも嬉しかったです。

2024年度からピアサポート事業は新しく展開していくとのことです。シン・ピアサポートでは里親だけでなく子ども同士の繋がりもとても大切だと思うので、子どもも参加できたり、家族で参加できる活動もあると有り難いと思います。

また、私自身子育て未経験で未委託の時に行事へ参加して里親子の様子を知ることができたり、子どもと触れ合うことができたのがとても勉強になりました。未委託の方にも積極的に参加して頂いて委託の際に何か不安なことや心配なこと、わからないことなど相談できる関係がサポート里親さんとできていたら良いと思います。

今後、里親さん全員がピアサポートのグループに所属するとのことで、養育・養子縁組などを問わず、必要な方にきちんと支援の手が届くようになることを願っています。(西毛のKさん)



仲間が必要としていることを企画し取り組んできました。お茶会やワークショップ、施設見学、子育て勉強会、児相職員から発達について学ぶこともありました。

——児相の専門職の方の話は聞いてみたいですね。今後のピアサポの活動にも展開できそうです（職員さんにはご負担をかけますが……）。そんなアイデアというか企画はおひとりで決めるのですか。



令和5年度は6回の活動を実施し（グループラインや個別対応は随時稼働）、一人ひとりが主体的に楽しみ学べるよう持ち回りで担当を決めました。

担当者は自分のやりたいことを優先して立案し、私は調整役です。持ち前の発想力や思いやりを活かした特色ある活動が展開できました。



私は、ピアサポートが始まってから全てに参加させていただきました。その時のリーダーさんによって色々な開催スタイルがありました。サロンのミニ版のような会議スタイル、リーダー宅で落ち着いたお茶会スタイル、おしゃれなお店や落ち着いた個室のある飲食店を利用して、食事をしながら和気あいあいと語り合う女子会やランチ会スタイル。

どの開催スタイルも里親同士の繋がりを感じられるのは変わりありません。子育ての悩みはもちろん、例えば委託後の手続きなど、こんな時はどうすればいいの?とか、同じ立場の里親さんだからこそ気兼ねなく聞くことができました。

また、色々な話の中で子育てであるあるも自分だけではないんだ!みんな同じなんだね!と共感できる部分も多く、もやもやしてた部分もピアサポ帰りはスッキリなんてことも多かったです。

また、メンバーは未委託、養子縁組里親、高学年児童の養育や幼児の養育など様々なタイプの里親同

直売所探検やご実家に招待して下さった企画など面白かったです。

——まとめ役のサポート里親だけが背負い込むのではなく、グループの皆さんと一緒に作り上げて行くというのは、シン・ピアサポートでも行かして行きたいことですね。具体的にはどんなテーマですか?



子育て中に感じるストレスや不安を共有し里親同士で支え合うことで、心の負担や養育の負担を軽くすることが一つ大きなテーマです。また他の里親さんからの体験談や勉強会で自分たちだけでは気づかない養育のコツや問題解決の方法を知ることができることも大きなメリットで、より良い養育をする手助けになります。

子持山学園やしろがね学園への見学、物作りのワークショップ体験なども実施しましたが、里親間での体験共有も里親としての絆や理解を

士のグループなので、色々な立場の話が聞けることもとてもメリットと思います。

例えば、未委託でこれから特別養子縁組を考えているなどの場合は、サロンとは違い、もっと近い距離から話ができるので、サロンで聞けない、聞きづらくても気兼ねなく詳しく聞けました。初めての子育てで悩んでいた時も先輩里親さんに直に相談し解決に繋がったことも。

さらに、ピアサポメンバーは比較的近距離の里親同士が同メンバーになることが多く、ピアサポで初めて顔を合わせて、こんなに近かったんだね!なんてことからより繋がりを深めることもありました。

子育てにはどんな時も少なからず悩みはつきものです。私が4年間ずっとピアサポメンバーとして活動し、得られたメリットはとても多く、同じ里親だからこそ本音で言えた、助け合えた、少人数なので内容の濃い話ことができました。

私は、里親同士の繋がりがピアサポを通して得られた最大のメリットと思っています。これからもピアサポに参加し、安定した子育ての実現に向け情報共有し、もっと仲間が増え、皆のチームワークで安心して子育てができるように願っています。（中央のYさん）

深め、自信やモチベーションの向上にも繋がりました。

——アクティブですね。集まるだけやじゃなくて出かけて行く。そこで体験を共有するのも良い取り組みですね。



 ある日のピアサポの集いの時なのですが、里親さんたちの子育ての様子を話し合ううちに、あるお子さんの「つまずき」が話題になったのです。そのお子さんのこだわりとか過敏な様子から「発達の遅れかな？」と気づけたのです。早目の気づきが二次障がいを防ぐきっかけにもなるので大切な集まりだなと感じました。

——自分だけだと知識も少ないし、皆さんに話してみるもんですね。ところで、宮子さんご自身もお子さんたちと暮らす中で、どんなことを心がけておられますか。

シェアしていただける課題があるとよいのですが……。

 子どもたちの純粹無垢な笑顔はほんとうに幸せです。

その一方で子どもたちは、特性や深い傷つき体験による生きづらさを抱え苦しんでいます。特に対人関係に顕著にあらわれ、社会生活においても様々な弊害が生じることがあります。私たちは子どもたちの幸せも苦しみもまるごと伴走していきます。子どもたちが物理的、心理的な安心感を持って生活できる環境を整えますが、一番大事にしていることはどんなに苦しんでも「大丈夫だよ」という受け皿のある安心感の中にあるということです。

——心にささる言葉ですね。ありがとうございます。最後に、里親の皆さんで集まる時にはどんなことに気をつけておられますか。

 ピアサポ活動は自由に意見を共有できる開かれた場所です。そうした集まりでは参加者各自の感情やプライバシーへの配慮

(次ページに続く→)



2018年に、熱い思いを胸に里親登録をしたものの、なかなか養育里親として委託を受けることがなく、あっという間に5年が過ぎてしまいました。

里親会総会では、私と同時期に登録された方や、先輩里親さんたちから、委託を受けている里子ちゃんとのエピソードを聞くたびに、未委託なままの私には、里親さんとしての資格がないのではないかと、焦燥感を募らせていました。

そんな中、「ピアサポートメンバーになりませんか？」というお知らせを受け、こんな私でもいいの?! 感激し、ピアサポ活動に参加させていただくことになりました。

活動当初は、自己紹介の時に「未委託です」というのがとても申し訳なくて……この場においていいのか不安いっぱいでした。そんなネガティブな気持ちを吹き飛ばす勢いで、グループのメンバーさんたちが快く受け入れてくださっていることに、今でも感謝の気持ちで

いっぱいです。

活動内容は、情報交換や意見交流、子どもたちを交えての遊びの場もありました。私は実子を連れての参加でしたが、みなさんからとても良くしていただいたので、「次のピアサポはいつ?」なんて、子どもたちも楽しみにしています。

そして、ピアサポ活動をする中で一番良かったことは、夫が里親会へ積極的に参加してくれるようになったことです。今までは、わからないことだらけの世界だったので、慎重派の夫はなかなか関りを持とうとしなかったのですが、里父さんや里母さんのお話を聞いていく中で、不安も解消されつつあり、ピアサポ会で「自分にも何かできることはないかな?」と考えてくれるようになりました。

令和6年度からは、活動内容も大きく変化していくようですね。私のように未委託の里親さんでも、きっとやりがいや生きがいを感じながら活動に参加できると思います。はじめの一歩を踏み出すのは、とても勇気のいることですが、歩き出したらたくさんの良いご縁に巡り合うことができますよ。きっと。(西毛のFさん)

が必要になります。相手を尊重し、否定しないで傾聴する、守秘義務を守ることはマナーです。

また、悩みは人それぞれの状況によって異なり、個別に専門的なアプローチが必要な家庭もあります。一人で悩まずに適切な場所に相談できること、様々な対処法や支援策を仲間の経験と知恵でつなげていきたいです。

ピアサポは温かなメンバーさんが多く、フラットな関係で上手にヘルプし合える友だちのような関係がとても心強いです。ピアサポで気の合う仲間やお友だちに出会ってほしいと思います。

——新しいピアサポ活動に向けて貴重なお話をありがとうございました。



広報委員会では今後とも各ピアサポートの取材して行きたいと考えています。各グループの取り組みを紹介し合うことで、互いが参考にし、より良い「シン・ピアサポート」にしていきましょう。

今度は「あなたの、ピアサポ」に訪問するかもしれません。その時は、よろしくご協力ください。



令和6年度（2024年）

群馬県里親の会定期総会 & シンポジウム

「里親ピアサポートを語る」
ぜひ、ご参加ください。



コーディネータ
草間 吉夫 氏
新島学園短期大学准教授
全国里親会評議委員
元 茨城県高萩市市長
児童養護施設出身



パネラー
ゲスト里親さん
他県で活動されている里親さんにおいでいただく予定です

4/20

13:00-16:00 [土]

<会場>
群馬県社会福祉総合センター
B01会議室
(前橋市新前橋町13-12)

皆様のご支援に感謝いたします。

2023（令和5）年度も、多くの心あたたまるご支援をいただきました。ありがとうございました。 ※以下、敬称を略してご紹介します。

支援いただいた団体及び機関名	助成金の内容
(福) 群馬県社会福祉協議会社会福祉振興基金	ふれあいプロジェクト（夏休みに会員里親子と招待児童養護施設との相互理解と連携促進のための交流事業）
(福) 群馬県共同募金会	里子の自動車運転免許取得助成金（会員が養育する里子の運転免許取得にかかる費用一部助成） 群馬県内の里親ネットワーク強化事業（先進的な活動をしている他県の里親を招き「里親を中心とした子育てネットワーク」研修会、都内で心理相談室を開業している講師を招き「里親と里子の心を育てる」研修会、「里親支援と里親ネットワークについて」のアンケート実施）
(公財) 上毛新聞厚生福祉事業団「愛の募金」	本会及び里親についての周知、広報活動一部助成
(公財) 全国里親会	都道府県市里親会活動推進費（本会の活動推進費一部助成）
太陽誘電（株）等年末義捐金	親子でクラフト教室、里親制度啓発事業
(特非) 日本子ども支援協会	オンライン化整備（Zoom年間契約料の一部助成）
(株) ストームレーベルズ	「ゆたかな育ちと自立」応援助成事業（七五三のお祝い費用の一部助成） 全国里親会経由
(株) セイバン	会員が養育する新1年生にランドセル寄贈 全国里親会経由

個人寄付者7名、賛助会員10名、タイガーマスク運動、株式会社東部オート

【編集後記】 今号は「シン・ピアサポート」の特集記事をお送りしました。不足している情報も多々あることと思います。と一緒に活動していただくために今後も広報紙（おしゃべり通信）を通して皆さまにお伝えします。読後の感想もお寄せくだされば嬉しいです。（藤原）

群馬県里親の会 事務局

〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12
(群馬県社会福祉協議会内)

TEL: 027-255-6034 FAX: 027-255-6173

E-mail: satooya@g-shakyo.or.jp (荒川)
satooya2@g-shakyo.or.jp (岩上) (題字: 上原正男)